

日時：令和5年12月12日

開会 午後3時15分

○大阪市経済戦略局（馬越課長）：それでは、定刻になりましたので、令和5年度大阪市イノベーション促進評議会を開催します。

本日の評議会は、大阪イノベーションハブの会場とインターネットを通じて、相互に映像、音声の送受信を行うWEB会議の形式にて進行するとともに、YouTubeにより同時配信しております。

まず初めに、各委員と映像、音声の相互通信に問題がないかを確認させていただきます。

岡委員、いかがでしょうか。

○岡委員：はい。大丈夫です。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）：ありがとうございます。フォーリー委員、いかがでしょうか。

○フォーリー委員：はい。大丈夫です。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）：ありがとうございます。山本委員、いかがでしょうか。

○山本委員：はい。大丈夫です。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）：ありがとうございました。通信状況の確認は以上です。

本評議会の委員におかれましては、令和4年度末をもちまして2年の任期が満了しましたので、再任をお願いし、参考資料1の名簿のとおり、令和5年度からも引き続き北岡委員、岡委員、フォーリー委員、山本委員の4名の皆さまにご就任いただいております。本日は、4名の委員の方全員にご出席いただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

本評議会は、参考資料2の「執行機関の附属機関に関する条例」に基づき設置されておりました、グローバルイノベーションの創出の支援に関する事項の調査審議などをお願いするものでございます。

それでは最初に、開会にあたりまして、大阪市経済戦略局イノベーション担当部長の米倉からごあいさつ申し上げます。

○大阪市経済戦略局（米倉部長）：恐れ入ります。座ったままで失礼をいたします。大阪市経済戦略局イノベーション担当部長の米倉でございます。

委員の皆さまには、お忙しい中、会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。また今回、皆さまに当会議の委員に改めてご就任をいただきましたこと、大変ありが

たく、重ねてお礼を申し上げる次第でございます。

この評議会ですけれども、今、ご説明、簡単にございましたように、大阪市の条例に基づきまして、大阪市のイノベーション創出支援施策、これを実効性あるものとして推進をしていくために、グローバルイノベーション、それからスタートアップ支援に精通をされている委員の皆さまから、専門的知見に基づくご意見、ご助言などを頂くということを目的に開催をさせていただいております。

また、本市におけるイノベーション創出事業につきましては、ご承知のとおり、大阪産業局への交付金事業というふうにしてございまして、本日も大阪産業局からも会議に参加をさせていただいております。後ほど資料のご説明もさせていただきますけれども、本日は、この間の取り組みについてご報告を申し上げますとともに、来年度、令和6年度スタートアップ支援についてのご意見等を賜りたいというふうに考えてございます。限られた時間でございまして、委員の皆さまから各種ご意見いただきまして、大阪のイノベーション施策の発展、エコシステムの一層の充実といったところを図っていければというふうに存じます。

簡単でございますけれども、開会のごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いをいたします。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）：ありがとうございます。では、次に、早速ではございますが、委員長の互選をお願いしたいと存じます。参考資料2にあります、大阪市イノベーション促進評議会規則第4条には、当評議会には、委員の互選によりまして委員長を置くこととなっております。いかがいたしましょうか。

○岡委員：岡ですけれども。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）：はい。お願いいたします。

○岡委員：引き続いて北岡先生にお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）：ただ今、岡委員から北岡委員を推す声がございましたが、皆さま、いかがでしょうか。

○山本委員：賛成です。

○フォーリー委員：はい。賛成です。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）：北岡委員、よろしいでしょうか。

○北岡委員長：はい。ありがとうございます。仰せつかりましたので、ぜひ大阪市のためにいろいろご助言させていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）：ありがとうございます。それでは、北岡委員に委員長をお願いいたします。

また、同じく規則によりまして、あらかじめ委員長の代理を決めておく必要がございます。北岡委員長、いかがでしょうか。

○北岡委員長：私からは、引き続き岡委員のほうにお願いできればと考えております。よろしく申し上げます。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）：はい。北岡委員より岡委員、ご指名ございましたけど、岡委員、よろしいでしょうか。

○岡委員：はい。よろしくをお願いいたします。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）：ありがとうございます。では、委員長代理は岡委員をお願いいたします。

それでは、これより北岡委員長に議事進行をお願いいたします。

北岡委員長、どうぞよろしくお願いいたします。

○北岡委員長：はい。それでは、議事のほうをすすめてまいりたいと思います。

まず、資料 1 枚目の「次第」をご覧ください。本日の議題は、大阪市グローバルイノベーション創出事業などに関わる最近の主な取り組みについてということと、令和 6 年度のスタートアップ支援についてとなっております。まず、議題 1 について、事務局より説明をいただいた後、各委員からご意見や感想を頂きたいと思っております。その後、議題 2 について事務局より説明をいただき、皆さま方から意見やご感想を頂きたいと思っております。円滑な議事進行にご協力をお願いしたいと思います。

それでは、議題について事務局より説明をお願いいたします。

○栗村課長代理：はい。経済戦略局イノベーション課の課長代理の栗村と申します。私のほうから説明させていただきます。

まず、議題 1 の「大阪市グローバルイノベーション創出支援事業にかかる最近の主な取り組み」ということで、お手元の「令和 5 年度大阪市イノベーション促進評議会資料」に沿ってご説明させていただきます。

基本的には大阪市の取り組みについてのご説明になりますけれども、大阪府下や京阪神地域の連携事業の取り組みについても併せてご紹介させていただきます。

それでは、次が目次になりますけれども、次の 2 ページのほうから説明させていただきた

と思います。

これは、大阪市のイノベーション創出支援の体系についての資料となっております、左の囲みに「大阪市イノベーション創出支援事業」が書かれていますけれども、コミュニティ形成、人材育成、プロジェクト創出を目指してさまざまなプログラムを、この OIH で実施しております。大阪イノベーションハブの事業というのは、大阪産業局に対する交付金事業として、産業局が弾力的に事業を実施しており、これまでの評議会でもいただいたご意見につきまして、可能な限り反映しながら取り組んでいるところでございます。そして、この事業とともに、右の囲みにありますように、人材や資金の引き込み、また、海外の情報発信などは京阪神、また、関係する機関が一体となって連携しながら、大阪・関西全体のエコシステム強化に取り組んでいるところです。そのようにして、一番下にかかれている、この「大阪・関西におけるイノベーション・エコシステムの構築 スタートアップの創出・成長」というミッションに取り組んでいるところでございます。

では、3 ページのほうになります。「最近の主な取り組みについて」ということですが、6 点ほどご説明させていただければと思います。

それではまず、4 ページのほうになります。まず、スタートアップ・エコシステム拠点都市事業についてでございます。令和 2 年に京阪神がグローバル拠点都市として国に指定されたことを受け、さまざまな国の支援を受けてきました。そちらのほうは、真ん中左側に書かせていただいておりますけれども、特に JETRO が運営する海外アクセラレーターによるプログラムで、令和 2 年度以降、また、今年度含めて、大阪から 32 社のスタートアップが参加しております。新型コロナウイルス感染症の関係で、これまでオンラインが主体でしたけれども、海外に実際渡航してのリアルの開催が、今年度からメインとなっております。このプログラムに参加した大阪のスタートアップについては、このプログラムの参加で国内外の大企業や投資家との連携、また、海外での出展に至ったというような成果も出ております。こうした国の支援を生かしながら、真ん中右側にありますように、大阪の関係機関が一体となって大阪のスタートアップの支援を行っていく仕組みとして、大阪スタートアップ・エコシステムが構築されており、現在 52 団体が参画しております。そして、大阪だけでなく、京都、神戸のコンソーシアムとも連携を図っております。また、京阪神の連携による取り組みの大きなものとして、京阪神スタートアップ・アカデミア・コアリクション (KSAC) がございます。これが一番下の資料に掲載しておりますけれども、関西地域の 22 の大学を含む、産学官金で構成するプラットフォームを構築し、「文部科学省の大学発新産業創造プログラム」という

ものを活用して事業を進めております。京阪神の6府県市についてもKSACに参加し、GAPファンドを活用した企業活動支援や、また、人材育成を進めているところでございます。

続きまして、5ページのほうになります。こちらは、拠点都市事業における情報発信という取り組みでございます。3点ほどご説明させていただきます。

まず、一番上が「Kansai Startup Mashups」というものです。京阪神のコンソーシアムとJETRO 大阪本部が協力して、関西発のスタートアップがグローバルに挑戦することを支援するためのブランドとして立ち上げたもので、今年の1月から3月にかけて、京阪神でこのブランドを生かしたイベントを実施させていただきました。真ん中「Dealroom」というものでございますけれども、こちらにつきましては、オランダのポータルサイトですけれども、このDealroom というところにJETRO 大阪と大阪産業局、京阪神のコンソーシアムが提携して、京阪神の最新情報を公開しているものです。内容としては、京阪神のスタートアップのリストであったり、資金調達の状況、また、支援機関の情報、イベント情報などを英語で掲載されており、国際的なVCやCVCに向けて、関西のエコシステムの魅力やポテンシャルを発信しております。

最後に、大阪のスタートアップの海外への発信というところでございますけれども、10月31日から11月2日にかけて、シンガポールで開催されました「Switch」というイベントで、大阪コンソーシアム各会員の取り組みに加え3社の大阪のスタートアップを出展させていただいたところです。以上が情報発信についての説明を主なものとして取り上げさせていただきました。

続きまして、6ページになります。「OIHの取組」というところです。OIHでは、スタートアップの創出と成長を促進するために、さまざまなイベントやプログラムを合計200回以上開催しているところです。また、大阪市との姉妹都市との交流を生かした、そういった取り組みも活発化しております。

まず、真ん中に書かれているのが、シカゴ市の関係です。シカゴ市とは姉妹都市提携50周年を迎え、相互に都市訪問を行い、今年の7月30日から8月4日、市長を含めた大阪市代表团により、シカゴ市を訪問させていただきました。その際に、「1871」と呼ばれるイノベーション支援機関を訪問し、スタートアップ支援に関する意見交換を行ったところです。また、11月にはシカゴ市代表团が大阪を訪れて、OIHで経済イノベーションセミナーが開催され、シカゴ市の副市長や、また、支援機関のピッチが実施され、交流会も行われたところです。

一番下には、メルボルン市との交流についてご説明させていただいております。メルボル

ン市を本拠地とするアクセラレーター「MedTech Actuator」と連携したプログラムで、OIHでアクセラレーションプログラム「Orijin」の日本セッションが、この10月16日、17日に開催されました。プレシード・シード期のヘルステック・バイオテックのスタートアップを対象に、グローバル展開を目指すための戦略、立案に関する講義やピッチトレーニングが行われたところです。そして、同じく10月に、市長がメルボルンの視察をされた時に、この「MedTech Actuator」にも訪問され、意見交換がなされております。このように、姉妹都市の交流を生かした取り組みも、コロナ後ということで活発化しております。

続きまして、7ページになります。国際イノベーション会議「Hack Osaka」についてです。今年の2月21日にはハイブリッド形式で行われ、リアルとオンラインの両方で、810人の参加者の登録がありました。イベントの主な内容をご覧のとおりですけれども、テーマセッションや、29社の国内外スタートアップ企業による展示、ピッチ、商談会が含まれ、商談会にはVCやCVC、大手企業が参加し、66件の商談が実現したところです。また、ピッチコンテストでは、世界各国の9社が登壇して、海外スタートアップと大阪・関西の企業、投資家との54件のマッチングが行われました。今年については、もう一回Hack Osakaがございまして、来週になりますけれども、12月18日月曜日、19日火曜日に「Hack Osaka 2023 -2nd. Edition-」ということで開催を予定しております。2025年の大阪・関西万博に向けて、大阪エコシステムの発信力を強化するため、初の2日間開催が予定されております。このイベントには、国際ピッチコンテストの日本予選が組み込まれておりまして、関西と世界をつなぐゲートウェイを目指すものとしてイベントをさせていただきます。こちらのほうは、リアルのみでの開催ということになっております。

こうした取り組みがありまして、次のページになりますけれども、「数字で見る成果」というところになります。上段は、国に申請している拠点計画に記載しております、大阪コンソーシアムとしての目標です。こちらにつきましては、数値的には順調に進捗（しんちょく）しておりまして、スタートアップの創出、特に大学発スタートアップの設立においては、目標としているペースを大きく上回っております。また、大型資金調達についても順調になされております。ただ、ユニコーンの輩出についてはまだない状況となっております。万博を見据えたプロジェクトの企画支援体制整備、プロモーションが各方面で進んでいることもありますので、今後はこういったところに注力していきたいと考えております。

そして、一番下の段には、大阪産業局交付金事業を実施する大阪市独自の目標が記載されております。特に、資金調達支援では、当初目標を大幅に上回る成果が出ており、当初、目

標としては 80 億円でしたけれども、300 億円に目標を上方修正しているところです。

それでは、ここで注目のスタートアップというところで、9 ページから 10 ページにかけてご説明させていただきます。今回は時間の関係で、四つ紹介させていただきます。一つ目は、大阪ヒートクール株式会社です。これは、温度の刺激によって痒み緩和を行うデバイスを開発されている会社ですけれども、大阪産業局として、2022 年 2 月開催の「Hack Osaka 2022」のテーマセッションに登壇に向けた調整を行いました。また、先ほどご説明させていただいた、オーストラリアの MedTech Actuator の Origin Japan プログラムを受けられ、2022 年 9 月に日本代表として選定され、メルボルンにおいて、海外のスタートアップと合同で行う集中講義とピッチコンペティションに参加されました。さらに、今年につきましても、JETRO が実施する「グローバル・スタートアップ・アクセラレーションプログラム (GSAP)」というのができましたけれども、そちらのほうの Deep Tech コースに採択され、現在受講されているところです。

二つ目は、株式会社 EX-Fusion です。レーザー核融合商用炉の実用化に向けたレーザー照準システムの開発を行う、大阪大学発スタートアップです。後ほど説明する「起動」のプログラムの第 1 期に採択され、大企業との連携や資金調達を産業局としても支援しているところです。次週の Hack Osaka にも登壇していただくということで、いろいろなイベントで EX-Fusion さんが出ておられるという状況です。

三つ目になります。次のページになりますけれども、株式会社 OTENTO です。こちらは、関西圏の飲食店向けに人材不足を解決する「OTENTO」という新たなサービスを開始された会社です。来店したお客さまがスタッフの接客を評価し、接客充実度を目に見える形にすることによって人事評価を行うサービスを提供されておられます。最近では分野を広げ、観光にも広げておられます。今年度につきましては、OSAP 第 14 期企業に採択され、アクセラレーションプログラムを提供しているところです。また、企業との個別面談やマッチング等も実施しております。

最後になりましたけれども、四つ目は、株式会社ミーバイオというところです。東京大学の佐藤教授が発明された「光スイッチタンパク質」技術の実用化および光スイッチ技術を用いた新産業の創出を目指して誕生した、大学発のスタートアップです。こちら、先ほど述べました、株式会社 EX-Fusion と同様、「起動」の第 1 期に採択され、また、今年度は「HeCNOS Award」カーボンニュートラル分野の企業に採択されたということで、今後、2025 大阪・関西万博における大阪ヘルスケアパビリオンの出展に向けてサポートを実施しているところで

す。以上が注目のスタートアップということですが、今後も引き続き、きめ細やかなフォローアップを行っていくこととしております。

では、続きまして、11 ページになります。「産学官連携」の分野ですが、大阪市イノベーション創出支援補助金の部分になります。こちらの補助金は開始から 10 年を超え、これまで 119 件、23 大学に交付し、17 件が実用化された実績があります。この補助金をきっかけに、新たな研究費の獲得につながるなど、大学シーズの事業化に一定貢献しております。

最後になりますけれども、3 番で、「前回評議会における主なご意見」ということで、こちら、ご意見の一部を掲載させていただいております。資金調達環境、経営人材の確保、情報発信について、ディープテック支援、万博へのスタートアップの参画、また、起業家教育に係る意見を頂戴したところです。

以上が主な取り組みに関する説明となります。最近の主な取り組みについては以上ですが、委員の皆さまからご意見を頂ければと思います。よろしくお願いいたします。

○北岡委員長：ご説明ありがとうございました。では、各委員のほうからご意見やご質問を受けたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○岡委員：じゃあ、僕からよろしいでしょうか。

○北岡委員長：はい。お願いします。

○岡委員：KSAC についてはすごく、内容的にはいいなと思っていて、もっともっとそのへん深掘りしてやっていければなと考えています。

最近、KSAC のほうで、こちらに書かれてはいるんですけど、北岡先生から見られて、何か大きな成果ってどのようなものがありましたでしょうか。

○北岡委員長：KSAC でよろしいですか。

○岡委員：はい。

○北岡委員長：まず、私は KSAC には直接関与してないんですけど、JST の立場から見ても、まず、関西の主要大学のネットワークがまずできたということ、京大、阪大を中心としてのノウハウを各大学に移植しつつあって、各大学のまだ支援体制が整っていないところであっても、それをある程度の形まで POC のところまで持って行って、それを VC につながるような仕組みができつつあるということです。これを、各大学どうやってさらに発展化していくかっていうところだったんですけども、今、内閣府の交付金が 988 億円積まれていて、その採択結果が近々出ているという状況にありますので、それによって、向こう 5 年間こ

の活動を継続できるってことになりますので、岡委員がおっしゃるとおり、大学だけではなくて、自治体、そして民間企業、経済団体を巻き込んで進めていくというのが非常に重要な時期に来ているのではないかなというふうに感じております。

以上です。

○岡委員：ありがとうございます。二つ目が、大阪スタートアップ・エコシステムコンソーシアムの目標なんですけども、ほとんどの KPI のところで、数字は達成されているということですが、あと、ユニコーンですね。これはもう日本全国どこも、VC も含めてなかなかうまくはいってないんですけども、3 社ということで数値目標されていますけど、このへんについて今改革、どのようにされてるのか。僕自身はやっぱり、ユニコーン出すにはスタートアップも大事なんですけど、資金の出し手がないとなかなか難しいなと思っていまして、そのへんも含めて今、どういうふうな対策をお考えか教えてもらえますか。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）：ただ今の岡委員の、ユニコーンという目標でございますけど、これ、確かに委員おっしゃられていますとおり、なかなか難しい目標です。また後ほど、令和 6 年度のときに、後半の説明で出てくるんですけど、「起動」というプログラム、北岡先生中心で始めていただきましたプログラムなんですけど、大阪産業局のほうで運営していまして、こちらで非常に優れたスタートアップを選びまして、民間の企業さんからもいろいろ、これまで以上に協賛いただきまして、優れたスタートアップの支援をしているところでございます。大学発とかが多いんですけれども、ユニコーンにつながるようなところを生み出していきたいと思っていまして、まさに岡委員がおっしゃられたとおり、スタートアップも大事、資金調達も大事ということで、何とか実現しまして、大阪・関西のエコシステムが発展していく、そしてまた、さらにいろいろ資金とかが海外からも集まっていくようにしていきたいと思っているところでございます。このへんまた、後段で説明させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

○岡委員：はい。分かりました。最後、注目のスタートアップ 4 社について、3 社がディープテックということで、2 社はよく知っているところなんですけども、非常にいいところ選ばれているなと感心しました。非常にどの会社もポテンシャルがありますし、ユニークな技術を持っていますから、ほんとこの 4 社、ユニコーンになればすごく大阪も盛り上がると思いますんで、「起動」のほう頑張ってもらいたいなと思いました。

僕からは以上です。

○北岡委員長：続きまして、フォーリー委員、お願いできますでしょうか。

フォーリー委員：はい。私はちょっと、万博との関連性についてお伺いしたいんですが、今、大阪ヘルスケアパビリオンのところの中の出展というところではご発言があったように思うんですけども、そのほかの具体的な万博とスタートアップの関与という面で、何か活動があれば教えていただけるでしょうか。

○中村部長：ありがとうございます。大阪産業局の中村です。大阪ヘルスケアパビリオンに関する取り組みとともに、大阪市さんの事業の中で、実際に万博に出展されるパビリオンのところの企業さまと、ご連携を進めながら、一緒になって万博に出展、もしくは万博に関連できるような取り組みをできるようにスタートアップさんへご支援をさせていただいております。大阪パビリオンの部分とは別の部分で、企業パビリオンをご出展される企業さまとも連携を進めながら取り組んでおります。後ほどこちらにつきましても、資料のほうでご紹介させていただくものになると思いますので、よろしく願いいたします。

○フォーリー委員：はい。ありがとうございます。よく、どこに問い合わせをしたらいいかわからないというようなことがありまして、多くのスタートアップが何とか万博に絡みたいと、夢を持ってらっしゃるところも多いというふうに聞いておりますので、後ほどご説明いただけたらと思うんですけど、できるだけ多くの方に広報していただくと、機運醸成にも一助になるのかなというふうに思いましたので、よろしくお願いします。

私のほうからは以上です。

○北岡委員長：はい。それでは、遠くヨーロッパから、山本委員、お願いします。

○山本委員：よろしくお願いします。おはようございます。何点か感想と質問と重なるところもあるんですけども、最初に、「Switch」に出展されているというところの情報発信で、すごい良いなというふうに思いました。海外の自治体さんもそのようにして、パビリオンを出された中にスタートアップが出ているというところで、ここの自治体のところに、例えば、ドイツとかだとバーバリアといってミュンヘンとかが入っているところだとコウダイがあって、そこに行くと結構、ディープテックがいるのかなというような、だんだん期待も増えて見にいったりすることもあるので、そういうのも醸成できると良いかなと思いました。

中でも、スタートアップさんだけでなく、先ほど、万博のほうでこのような形でっていうふうにおっしゃっていたんですが、企業さんとか、一緒にその中に入ってもらっしゃるスタートアップさんも一緒に海外で展開するっていうのも良い方向ではないかなと思ったんですけども、その理由は、体力がある企業と一緒に海外展開するっていうのと、そこにスタ

ートアップが入っていると、この企業がオクケーと言ってるんだということで、向こうも目利きをする労力が減るといふか、そこだったら、電力会社からサポートを受けてるんだったらうちにもいいかもしれないなというふうにしてみてくださいというところもあるのと、その企業自体もスタートアップを見て、海外のスタートアップがこういうスタートアップを採択してるんだったら、僕たちにも注目してくれないかなというふうにして、逆に海外のスタートアップがアプローチしてくるという可能性もあるので、スタートアップさんだけでなく、そのスタートアップさんを囲っているというか、一緒にやられている大企業さんも一緒に行かれると、また違った効果も出てくるのかなと思いました。

メルボルンの「MedTech Actuator」ですけど、こちらはバーチャルなというか、プログラムでも関連という感じなんですか。それとも、彼ら自体を誘致したという形で、これから定期的に同じようなプログラムがどんどん育っていくような感じになっているのでしょうか。単発なのか、ずっと続いていく感じなのか、どういうセットアップなのかと思って、後者だといいなと思って伺ってるんですけども。

○中村部長：ありがとうございます。今の段階では、実際に現地に行って、病院であったりとか、現地の投資家などに会うようなプログラムになっています。また、事前のワークショップの中でも、「MedTech Actuator」のスタッフなり CEO もこちらのほうの大阪のほうにお越しいただいて、事前ワークショップも出させていただいております。今後につきましてはまだいろいろとディスカッションを深めていくところではありますけども、こういった今回の、今年もやっていますし、去年もやらせていただいたので、これを機に、できるだけこういった「MedTech Actuator」みたいなヘルスケアとか、大阪に強みのあるアクセラレーターなどと連携しながら、スタートアップの海外展開をぜひ支援していきたいと考えているところです。

○山本委員：ありがとうございます。地場で強い産業クラスターにフォーカスして、いろいろなところと同じようにやってけると良いなと思いました。

Hack のほうが「Get In the Ring」を組み込んでいるということで、素晴らしいなと思っています。投資金額についてですけども、上方修正ということで素晴らしいなと思っていますけれども、それが続いているというところで、何か特に見られてる特徴みたいなものっていうのはありますか。

○中村部長：ありがとうございます。恐らく、ディープテック系のスタートアップへの投資金額はやはり、1 件当たり大きいのかなというふうには感じているところです。われわれも

大阪イノベーションハブとしての、そういったスタートアップとの接点創出はかなり増えてきておりますので、スタートアップさんからのそういった情報も入るようになってきているなというふうに印象を受けています。

○山本委員：ありがとうございます。多分、ディープテックへの投資が増えているっていうのは、海外に発信するにしてもとても良い数字だと思うので、何件とすると少なくなってしまうかもしれないですけど、見せ方をうまくして、ディープテックが盛り上がっているというところをうまく発信していけると良いのではないかなと思いました。

最後、岡委員と同じく、ユニコーンなんですけども、後ほどご説明あると言っていたんですけど、その時にご回答いただけるかなと思いながら、私の質問をここに当てさせていたでくので、後でご回答いただければと思いますけど、どういうスタートアップがなりそうかという中、ある程度検討がついているのであれば、そのスタートアップさんを支援していくための資金調達の仕方とか、どういう産業界であったり VC とかを巻き込んでいくかっていうのって、結構最初のほうにある程度プランしておいて、それが達成できるように全員でサポートしていくのがやっぱり必要なのかなというふうに思うので、どんなふうに、こういった投資家であったりとか機関とか、いろいろなところを巻き込んでいって、ギャップがある場合は国の資金が入るのかとかいろいろあると思うんですけど、そういった戦略とか、ロードマップみたいなものがあるのであればなと思って伺っています。

以上です。

○北岡委員長：はい。ありがとうございます。ちょっと、今後の議論の整理のためなんですけど、数字で見る成果の対象となるスタートアップなんですけど、大阪スタートアップっていう定義なんですけど、先ほど、東大の佐藤先生の案件のミーバイオがカウントされているということなんですけど、何をもって大阪スタートアップという定義になってるかというのは何か厳密にあるのか、今後、関西圏を大きくするために拡大解釈していくような方策なりを考えられているのかっていうところなんですけど、いかがでしょうか。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）：今の時点では、この大阪発っていうのは、大阪府域にあるスタートアップ、府域です。大阪市だけではなくて、大阪府域にあるスタートアップということになっております。ただ、こちら、大阪イノベーションハブにつきましては、全国、海外も含めてスタートアップ、どこのスタートアップでもいろいろ支援するということにして、先ほど資金調達の話もありましたけど、かなり高額な資金調達してるところ、大阪以外のスタートアップもあるんです。いろいろプログラムを受けていただいて。そういうふうな実績

は、この 8 ページのことだけでしたら該当しないわけなんですけれども、それちょっとどういうふうにするのかっていうのを今、考えているところです。よその自治体とかでしたら、自分ところで支援したやつは自分ところの成果でもあるというような打ち出し方をされてるところもあるんですけど、どうやっていくのかというのはしっかり考えていきたいと思っています。

以上です。

○北岡委員長：今言われたこと、すごく重要で、実は近畿経済産業局の局長とこの間話した時に、結構今これ、ぱっと皆さん目を通して見た時に、意外と環境エネルギー系が多いなっていうのに気付かれると思うんです。その中で、先ほど山本委員が、大企業連携で電力会社や地域の環境系がサポートしているっていうのは一つ大きなところとした時に、今、馬越さんがおっしゃったように、ここにちょっと出てないんですけど、例えば京都フュージョニアリングというのは、今年の東洋経済で調達額ナンバーワンというので挙がっていて、EX-Fusion もそれに続くようなところとか、あと、エネコートテクノロジーズさんが、いわゆる NEDO の大型予算を調達してるとかっていうところもあって。

われわれ結構、大学では、関西という意味で、大阪と京都と神戸をあんまり意識していないということを考えた時に、この 3 市がやっぱり連携して、お互いダブルカウントでもいいので、関西圏にこれだけのユニコーンに近いものがあるんだっていうことをどう明示していくかっていうところがすごく重要だと思いますし、ある意味、そういうところをある程度ユニコーンの候補者として世界に発信していくことによって、今、アメリカでも核融合系の調達というのはとてつもない動きがある中で、大阪大学にも核融合系ベンチャー 2 社が、今、共同研究をしたいということできいろいろオファーがあったりっていうこともあるので、そういうこと考えていく時に、やはり関西圏全体で盛り上げていくっていう視点と、実際に大阪府に登録されている、もしくは大阪府にあるベンチャーというのを分けてきっちりとさせていくほうが、やっぱり関西全体の盛り上がりになるのかなということと、それを取りまとめるという意味では、前から言うように、バイオはちょっと置いといたとしても、エネルギーっていうのは一つ今、見えるキーワードではないかなというところがあるので、そのへん、ぜひ今後の施策に生かしていただければなというふうに思いました。

令和 6 年度のところでも再度議論がされるということもありますので、まずは令和 6 年度のスタートアップ支援のほうに話を移していきたいなというふうに考えております。まず、最近の取り組みに対して、各委員からご意見頂きましてありがとうございました。

では、改めまして、議題 2 となります「令和 6 年度のスタートアップ支援について」、事務局よりご説明をいただきたいと思います。その後、今の活動も含めまして、皆さま方からご意見やご感想を頂き、事務局からの回答をお待ちしたいと思っております。では、事務局から説明のほうをお願いしたいと思います。

○栗村課長代理：はい。では、栗村のほうから引き続きご説明させていただきます。

令和 6 年度のスタートアップ支援についてということで、先ほどの資料の続きになりますけれども、13 ページのほうになります。令和 6 年度につきましても、従来の取り組みを推進するとともに、以下の 3 点についても一層注力していきたいと考えております。それでは、一つずつ説明させていただきます。

まず、1 点目ですけれども、「創業支援、シード期アーリー期スタートアップに対する支援の強化」というところでございます。14 ページになります。OIH、会員制度を設けておりまして、プレイヤー会員というのは、現在約 1,300 ほどありますけれども、未企業の学生であったり、個人会員など、そういったものを除いて、約 500 社が現在活動中のスタートアップと考えられるところです。この 500 社を可能な限り分析したところ、5 割以上が VC 等からの資金調達の実績がない、あるいは、9 割以上がアーリー期以下のステージにあるということが分かりました。こういった会員企業の分析を行いつつ、今後の方向性としては、そういったスタートアップの成長において、やはり厳しい段階となりますアーリー期以下のところに対して支援を充実させる必要があると考えております。

具体的なプログラムが下にかかせていただいておりますけれども、起業希望者やアーリー期以下のスタートアップに対する個別の伴走支援を強化して、会員である各スタートアップに対して、専属担当者となる OIH のスタッフを担当として置き、緊密なコミュニケーションを図り、課題解決のための相談、また、VC 等のマッチングによる連絡支援など、これまで以上にきめ細やかな支援に取り組んでいきたいと思っております。

次のページになりますけれども、また、ピッチイベントの充実ということでございます。スタートアップと VC との連携となるピッチイベントの回数を増やして実施し、OIH ではスタートアップのレベル、目的に応じて、以下のように各種ピッチイベントを行ってまいりますけれども、こういった会員の分析結果などを考えて、これらのプログラムをより充実させていくということにしております。

また、(3) の「アクセラレーションプログラムの充実」ということですが、アーリー期のスタートアップを対象に、企業経験者からのアドバイスや大企業 VC などの連携によ

り、事業成長を加速するためのプログラムを実施しておりますけれども、このプログラムにおいて、スタートアップの課題を総点検し、評価、改善すべき点についてフォーカスした伴走支援に取り組んでまいりたいと考えております。

二つ目になります。次のページになります。「世界が注目する成長分野でのスタートアップの創出」というところになります。

先ほどのところでもちょっと出てきたんですけれども、まず、「起動」というプログラムについてご説明させていただきます。2022年の4月から9月にかけて、世界が注目する成長分野でスタートアップを創出するため、関西圏の企業、大学、自治体のリソースを結集させたインキュベーションプログラム「起動」、こちらの第1期を実施させていただきました。この「起動」というプログラムは、大阪産業局が民間企業からの協賛を得て運営していただいております。最大1,000万円の事業資金と、全国トップクラスのキャピタリストなど、専門家による6カ月のハンズオンの支援を行っております。173件の応募があり、5社がこのプロジェクトに採択されました。この「起動」の支援により、以下の5社の支援を行ったところですが、例えば、株式会社OPTMASSというのは、こちらは透明の太陽電池の開発をしている企業ですが、うめきた2期地区の開発プロジェクトのところにおいて、実証実験などが決定しているところでございます。また、先ほど説明させていただいた株式会社EX-Fusionにつきましては、この企業プログラムにおいて、パートナー企業、大企業の保険会社とスタートアップが、例えば、実験設備構築する時の事故などを、リスクに対応するための保険などをともに共同開発したということ、また、支援期間中に企業パートナーの企業から資金調達にも成功したということになっております。さらに、先ほどもご説明させていただきましたミーバイオ、また、fucroについては、「起動」のメンターが「HeCNOS Award」に誘導を行い、万博会場の大阪ヘルスケアパビリオンへの出展に向けてサポートを行ったところでございます。第1期は取りあえず終了しておりますけれども、第2期のエントリーが行われており、12月8日に応募を締め切れ、今後、採択者を選定していく、そういった状況となっております。令和6年度にかけて、この採択者をサポートしていくこととなります。

続きまして、17ページ、こちらが万博関係になりますけれども、「カーボンニュートラル等新技術ビジネス創出支援事業」についてということになっております。こちら、令和4年度から開始させていただいている事業ですが、カーボンニュートラル分野を中心に、大学などの有望な新技術を発掘して、スピード感をもってビジネス化の支援を進め、万博で

の出展や実証実験などで活躍するスタートアップを 10 社輩出することを目標にしております。昨年度と今年度、この 2 年間で専門人材による有望なスタートアップを合計 20 社選んだところです。それとともに、パビリオン出展企業参加のもと、協業に向けたビジネスプランや、連携提案の策定支援も行っております。万博出展などを目指すスタートアップなどを募集して、令和 4 年度には株式会社パソナグループとワークショップを実施しました。また、今年度につきましては、電気事業連合会、また、株式会社パソナグループ、株式会社バンダイナムコエンターテインメントの 3 社と、こういった協働を実施しております。このプログラムの終盤には、参加したスタートアップがパビリオンの企業側に協業案を提示して、パビリオン企業が採択すれば、このスタートアップが企業パビリオンに出展するということになっております。令和 6 年度、こちら、万博前年度になりますけれども、企業パビリオン、大阪ヘルスケアパビリオンなどへの出展確定しているスタートアップに対して、魅力的な展示に向けた支援を実施する予定としております。

最後になりますけれども、18 ページになります。「民間企業の大阪スタートアップ・エコシステムへの参画の促進」という点です。スタートアップの成長には、大型資金調達や民間企業、特に大企業との連携の促進が必要です。そのためにも、エコシステムへの大企業などの参画促進が不可欠であると考えております。下のほうに、これまで説明した事業を書かせていただいておりますけれども、個別伴走支援の強化、「起動」プログラム、また、Dealroom を活用したプロモーションなどを行っているところですが、そのほかに、民間企業参画していただくための仕組みとして、コンソーシアム各機関を対象としたスタートアップ連携に関する企業勉強会の開催をさせていただいております。こちらが一番下の囲みの部分になりますけれども、コンソーシアムメンバーである大企業、金融機関から、スタートアップとの連携手法であったり、自社における VC、CVC の設立、運営、オープンイノベーションの方法、ファンドの組成方法などについて、情報交換の場の設定や、専門家による勉強会の実施について要望があったため、この勉強会を開催しております。

このような取り組みを通して、各機関とスタートアップとの連携に向けた機会づくりに取り組むとともに、コンソーシアムメンバーの間の連携や活性化を目指しているところです。このように、大阪コンソーシアム会員企業との交流促進を進めているところですが、一層の参画促進策などについてご意見を頂戴できれば幸いです。

議題 2 の説明は以上とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○北岡委員長：はい。ありがとうございます。先ほど委員から質問あった、ユニコーンの候

補の絞り込みや、その絞り込みに対する資金の出し手の拡充っていうようなことに関して、現状で取り組まれていることがあれば、何かご意見頂ければと思うんですけど。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）：よろしいですか。すいません、先ほどの説明の補足というような感じになるかもしれませんが、前半、山本委員からも、ユニコーンをつくる上で VC とかをどう巻き込んでいくのかというご質問ございましたけれども、ちょっとそのご回答になっているかということもあるんですが、この間、いろいろこの評議会でも、委員の皆さんから情報発信ということで意見を頂いてるんですけども、まず、海外の VC とか、やはり大型資金というようなことで、海外の VC にもっと知っていただく情報発信をすることが大事だろうということで、先ほどの Dealroom とか、シンガポールの Switch とか、こういう海外の大型 VC とかが集まるようなところ、見ていただけるようなところというのを活用した積極的な情報発信をやっております。スタートアップ自体の視点につきましては、先ほど説明ございました、「起動」とかカーボンの取り組みとか、万博とかも活用しました取り組みで支援をやっているところでございます。

それから、コンソーシアムで 50 社ぐらいの企業さんとかに入っていて、コンソーシアムの活動をやってるんですけども、やはりもっとスタートアップの支援、また投資とかいうようなことで考えてみましたら、もっと多くの企業さんとかに、スタートアップとの付き合い方とか投資についての知識とか入れていただいて、もっと身近に感じていただくというようなことが大事なんじゃないかと思っております。ちょうどコロナも明けたこともございますので、この資料の 18 ページの後段、最後のほうにございますように、大企業とスタートアップの連携に関する勉強会のご要望もございましたので、やっているところでございます。先日来、こちら、大阪イノベーションハブで 2 回ほどやっていただいております、かなりいろいろ多くの方に参加いただいております、いろんな付き合い方なり学んでいただいているところでございます。

私ども、まず、そういうふうなことで、先ほど巻き込むというようなことで、やはり関心持っていただくこと、知っていただくというようなことが、非常に重要なことだというふうなことも思っておりますので、スタートアップ自体の支援とともに、そういう発信っていうのを今、力入れてやっているところでございますけど、そのへんも含めましてご意見頂ければというふうに思っております。

以上です。

○北岡委員長：はい。対話を続けていったほうがいいかなと思いますので、各委員から追加

で質問頂ければと思いますけど、いかがでしょうか。

岡委員、お願いします。続いて山本委員、お願いします。

○岡委員：先ほどのユニコーンもいろいろうまく説明を受けたんですけど、気になったのが、勉強会です。勉強会、1回目、2回目されて、大企業、スタートアップとが深く理解し合っていて、ユニコーンを目指すスタートアップに企業が直接投資をしていただくっていう、そういう流れかと思うんですけど、これ、次回3回目がいつあるのか、これは、われわれのような委員も参加できるのか、そのへん教えてもらえますか。

○中村部長：ありがとうございます。こちら、次回、来年2月頃に予定で準備を進めております。皆さま、ぜひ委員の方にも参加いただきたいですし、コンソーシアムに参画されていない事業会社さま、こういったスタートアップ支援に関心のある企業さまのほうにも今後働きかけをしていこうとは思っております。

○岡委員：大体、この前、2回目で何社ぐらいが参加されて、どのようなことが満足されたこととか、アンケートとかってされたんでしょうか。

○中村部長：ありがとうございます。参加された方は28名と伺っているんですけども、満足度が非常に高かったというふうに聞いております。これまでもこういった取り組みは他の機関でも行われてはいると思うんですけども、いわゆる大阪エコシステムのコンソーシアムとして、皆さん思いを持って参加されてますので、そういった方々に常に情報を届けることによって、アンテナ立てて、例えば、コンソーシアムのそういった事業、勉強会を行うのであれば行ってみようかというようなお考えのもとで来ていただいておりますので、かなり満足度高かったというふうに伺っております。次回もぜひ、満足度を高めれるようにはしていきたいなと思っております。

○岡委員：この28名の中で、スタートアップは入ってるんですかね。

○中村部長：こちらについては、ちょっとスタートアップは入っていないものになっておりまして、対象は企業さまを対象にしております。

○岡委員：はい。分かりました。ありがとうございました。

○北岡委員長：ちょっと追加で。今の話、ちょっと矛盾するのは、大企業の勉強会になって、スタートアップをどうグローバル化するかって視点で考えた時に、われわれ、大学内では結構勉強してる中では二つ方法があって、大企業にM&Aをされて、大企業の海外事業部と連携をしながら発展していくっていうパターンが多分一つで、それは多分、伊藤忠さんと住商さんとか、いうたらグローバル企業に買収された上での海外展開というのは一つ重要

な視点と、もう一つは、やっぱり海外 VC からの調達しようとする、いわゆる起業前、もしくは起業寸前のところに海外 VC を出していくっていうような方策っていうのが今、大学で学んでいるパターンなんです。そうすると、今のやっていることっていうのは、日本の大企業のスタートアップとの付き合い方の勉強会になっていて、ユニコーンをつくるための勉強会ではないような気がする、もう少し大学を巻き込むなり、商社とか、いわゆる海外グローバル展開をしたことある企業のコンソーシアムを別途つくらないと、スタートアップとどうやって話せばいいですか勉強会みたいになっちゃってるんじゃないのかなってのはすごく心配だということを今、回答を聞いてちょっと感じたので、ここは根本的にもうちょっとテコ入れしたほうがいいんじゃないかなと。その意味で山本さんとかの、前回もドイツで、ミュンヘンなどでは、産業界とスタートアップがどういう連携をしていて、そっからどういうふうに関係しているかっていうのは、前回もご事例が挙げていただいたと思うんですけど、それと全く違う方向に行っているのかなというのがちょっと危惧するところなので、もう少し海外との連携、もしくは、大学が今進められてるところをどう取り込んでいくかっていうところの視点が重要かなというふうに思いました。

では山本委員、お願いします。

○山本委員：ありがとうございます。その勉強会については質問というか、こういうのはどうかなと思ったのがあったので、またお話をさせてください。

最初のほうからですけど、アーリー期とかにサポートしていくというのは良いなと思っていて、ベルリンとかですと、州がそういったスタートアップというか、スタートされているところで、1年間、月 2,000 ユーロずつ、エクイティも取らない形で資金を渡して、彼らが本当に集中できるようにっていうところで、金銭的にもサポートしているというのと、職員の方であったり、エコシステムのいろんなメンターの方がそこに来て助言して下さるというような、VC とのミートアップもあってってところで。VC というと、ベルリンは、州にベルリン投資銀行というような銀行がありまして、彼らはほんとにスタートアップとかにかなりフォーカスして、知見の高い方とかも経験が多い方もいっぱいいらっしゃるような感じなんですけど、こちらでも VC とのミートアップがあるというふうに書かれていたんですが、それをサポートしてくれる、何より VC ってどのぐらいいるのかなっていうのが少し気になったので。そういう方って、忙しかったりとかしてなかなか時間が割けない中、かなりの人数の方が今、OIH の会員としていらっちゃって、サポートを多分されているんだろうと思うので、そのへん、もしギャップがあるようでしたらどのように見ていくのかなというのが

気になったところです。

○中村部長：ありがとうございます。OIH のほうで、こちらの資料のほうに書かれている VC ミートアップなんですけども、今、2 カ月に 1 回開催させていただいてまして、主にキャピタリストの方々、ご登録いただいているんです。なので、今現在 100 名以上の方々にご登録いただいております、その方々にご案内を差し上げて、毎回スタートアップの方、3 社程度、一緒にそこでピッチをしてもらって、ほんとに直接お話いただけるような場づくりを、クローズの場づくりをしております。こちらに関しましては大阪だけではなく、幅広く関東圏とかの VC、CVC の方々にもご登録いただきながら広めていこうと思っております。これが先ほどちょっとご紹介したような、OIH のスタッフが個別にスタートアップさんと面談しながら、資金調達の課題とかニーズがあるのであれば、そこにもちょっとご登壇いただくようなアレンジであったり、もしくは、登壇がかなわないとしても、われわれのほうで今、ネットワークをつくっている VC さんとの、ネットワークの中で、じゃあちょっとこの VC さんに相談してみようみたいな、そういった関係性の構築というのは、実はこの数年間やってきておりますので、それがよりいい形で動きだしているのかなというふうに感じております。

○山本委員：ありがとうございます。やはりシステムも大切ですけど、多分こういったところって、やっぱり人対人なので、ワークしてきているというの聞いて、すごく安心というか、良いなと思いました。

「起動」という、次ですけど、プログラム、素晴らしいなと思って、そこに入ってらっしゃるスタートアップさんがかなりすごいところが入っているなと思って、おめでとうございますという感じなんですけど、これ、Switch とかに先ほど出られたり、すごく良いと思いますし、先ほど北岡先生がおっしゃっていたような、エネルギー系のところにフォーカスみたいな感じであれば、そういった特有のイベントというか、展示会みたいなのもあったりするので、そういったところのほうに行かれて、そこでサイドイベント的なものを、海外の VC 向けにやるっていうのもかなり良いのではないかなと思います。これ多分、数回繰り返していると、大阪とか関西圏、エネルギーに特化した、すごくいいスタートアップが増えてきているという印象もすぐ付くと思うので、そういったスタートアップの力を持っていけると良いのではないかなと思いました。

万博のところですけど、最初にカーボンニュートラルへの取り組みというのが議題としてあったというか、目標としてあった中で、万博のところではあんまり触れられてなかったの

かなと思ったので、カーボンニュートラルの取り組み、どうしていくのかなっていうの、少し気になっております。

最後、民間企業の勉強会ですけれども、多分、いろんな企業さんがいらっしゃると思うので、北岡先生がおっしゃったような、勉強が必要な企業さんもいらっしゃるれば、多分、今テコ入れするのは、その次のステップにいらっしゃる企業さんかなというふうに思いまして、実際に CVC とか、PL からでも投資機能を持っていらっしゃるというような企業さんが、じゃあどうやってやっていくんだという時に、勉強会も一つ良いなと思うんですけど、海外でというか、こっちであったりするのは、プログラム型みたいにして、最初の 100 日間で講義もすればワークショップもして、自分たちにとって、そこに既にスタートアップを、何社か興味ありそうなところを、日本の中含め、海外も含め、何社か入れておいて、このスタートアップに、じゃあ自分たちが投資するんだったら、どういうふうな条件だったら投資できるのかっていうのを、かなりワークショップして決めていくというのがあって、スタートアップの持っている技術そのままで大体イグジットするっていうことってなかったりもするので、じゃあ、自分たちが投資するんだったら、このスタートアップはこれぐらいの時期にこんくらい成長していかなければいけないとか、プロダクトマーケットフィットを自分たちのためにこう変えてくれなきゃいけないとか具体的にしていって、最終的には投資をしていくというような、投資をするためにみんなでサポートし合って、スタートアップにとっても企業さんにとっても、お互いに良い条件でつくっていく。そして、このペアのつながりも利用しながらみんなで学んでいくみたいなスタイルで踏襲していくような勉強会というか、実践型勉強会みたいながあるので、そういった勉強会というか、今後の取り組みとしてどうかなというふうに思います。

○中村部長：ありがとうございます。先ほどの勉強会のところは、北岡先生からのコメントもありましたし、山本先生のコメントもそうなんですけど、大変ありがたくて、これまで結構、大企業さんへの勉強会、スタートアップの付き合い方をずっと啓蒙活動的な形でやっているんで、多分それだけでは足りないんだらうなってふうにも感じてたので、次のステップとして、やはりもっと具体的に踏み込んだ、われわれとしてはユニコーン企業を出していくとか、世界に挑戦するスタートアップを出していくんだっていうところで、大手企業さんと一緒にどうやったらやっていけるのかっていうのを、目線を上げた取り組みを今後やっていきたいなとは考えてるところです。ありがとうございます。

○山本委員：ありがとうございます。多分そこに、それこそ NEDO の方とか入られていく

と、じゃあ最初の資金調達これくらいは企業から出せるけど、ここでギャップが来るから別の資金が必要だねみたいな話までしながら、イグジットまでの形を描きながらの資金調達というか、できるのではないかなと思うので。

○北岡委員長：多分、もう山本さんには釈迦（しゃか）に説法だと思うんですけど、われわれ最近、そういうのを勉強していると、やっぱりそれをサポートしてくれる海外 VC っていうのも本当に限られてると思うし、国内でもそれができる VC って多分、片手ないと思うんですよ。有象無象のベンチャーキャピタルがいて、いろんな案件をサポートしてくれるっていうのは、それはそれでありがたいんですけど、ほんとにグローバルを目指すベンチャーで、ユニコーンをつくるための VC と、いわゆる国内の IPO を目指す VC っていうか、そういうものをやっぱり分けて考えていかなきゃいけない時代かなっていうので、中村さんも室田本部長に付いて行って、ボストンとかかなり見られてると思うんですけど、われわれもシリコンバレーに行って、今、SkyDeck さんとかいろいろ話してますけど、やっぱり次元が全然違う目線でやられてるので、そういう感覚を伝えるということと、先ほど言ったように、例えば商社さんに M&A をされた結果、マーケットとして商社と一緒にグローバル開拓していくっていう戦略を立てる分と全く方法論も違うと思うので、そういうところをもう一回 1 から戦略づくりをしていくのがいいんじゃないかなというふうに思いました。

フォーリーさん、いかがでしょうか。

○フォーリー委員：はい。最初の評価ポイントのところで、創業支援シード期、それからアーリーというところが一番大変なので、そこに対する支援強化をしていくというところがあったんですが、ほんとにそうなのかなというところを実は私思っておりまして。というのも、関西におけるスタートアップ支援というのは、非常に努力して頑張ってやっていて、それなりの成果も今、出つつある時に、さっきの大阪スタートアップの定義って何ですかって、北岡先生がお話されていたんですけど、このコンソーシアムとして、今回、フォーカスをしていくスタートアップの定義っていうのをもう少し考えないといけないかなと。創業支援っていうのは今、本当にどこでも、大学も含めて、いろんなところでいろんな団体が創業支援をしていて、逆に言うと、創業は非常にしやすい。創業はできるけど、やっぱり成長ドライブがすごく難しい時に、もう一ついま関西でじゃあ、ちょっと前に資金調達したものの、ただそこでゾンビ化とまでは言いませんけど、なかなか今、上場が難しくなっている中で、そこに停留しているある一群があると思うんです。もちろんシードもアーリーもするべきだと思っているんですけど、シード、アーリーをして、その次に、ほんとにわれわれの目的と

してはユニコーンであったり、イグジットを何らかの形でしていきながら、このエコシステムを回していくというところであれば、どのタイミングでどの層に対して支援をしていくかっていうところを、もう少し細分化をしてもいいのではないかなというふうに思ったのが 1 点。

あと、さっきその話で言うと、勉強会の話なんですけど、大商も関経連も関西経済同友会もぐちゃぐちゃにスタートアップ、スタートアップって言っていて、どことは言えないですけど、その中の話で、スタートアップなのかと。スタートアップの次に行かないといけないのではないかというような議論もある中で、例えば同友会ですと、グローバル・ベンチャーエコシステム委員会というものもあったりする中で、やっぱりコンソーシアムってそういった経済団体との連携、府と市との連携はするという立て付けはあるんですけど、例えば勉強会とかで、どちらかですね。どちらがいいのかって議論があると思っていて、連携してやるのか、やはり連携ではなくて、独自の色をコンソーシアムとしては出すのか。そういった中で、さっきいろいろと議論が出てきていると思うんですが、勉強会の趣旨、目的というのを設定するというようなところも考えていただければと思います。

「起動」とかカーボンニュートラルはあれですし、万博はカーボンニュートラルに関わらず、全般的にスタートアップが万博に絡めるようなところのご支援というのはぜひしていただければ嬉しいと思います。

最後に一つですね、われわれがスタートアップを育てていく中で、国としての課題にやはり応えていくっていう視点が一個あってもいいのかなと。すなわち、女性なんです。やっぱり女性の活力というところで、日本は非常に低い評価が世界的にもされている中で、例えばこの前、スイスがイノベーションセンターを、梅田の新地のところで、スイスネックスですかね、オープンした時に、スイスの起業家が 6 人来てパネルディスカッションしたんですけど、3 名は女性なんです。そういったところが普通になった時に、じゃあ例えば、大阪とか関西から世界に出ていく起業家って男性しかいないというのは、ちょっとやっぱりいかななものかなと思っているので、どういう取り上げ方をするのかというのは検討のあれが必要なんでしょうけど、ただ、女性起業家をどういうふうにしてつくっていくかっていうのも、一つ大事な課題ではないかなというふうに思ったもんですから、コメントとして申し上げさせていただきます。

以上です。

○山本委員：すみません、ちょっといいですか。女性のところ、ほんとにそのとおりだなと

思っているのですが、ドイツに日本からピッチに来られた時に、来たスタートアップ全員が男性だと、日本ってまだこんな感じなのかっていう印象はかなり強く与えてしまうかなというふうに思ってます。

○フォーリー委員：そうですね。ベンチャーキャピタルの中でも、これ、山本さんのほうがご存知だと思うんですけど、例えば、ボードの中に何人女性がいるかっていう、そういったところも評価の一つになるっていう話は聞いたことがありますし、東京ではこの前、岡さんにご紹介いただいて、そういった今、女性起業家のフォーラムみたいなものつくって、それを小池知事に提言するとかそういったことをしているので、ぜひ関西でもそういった動きが、コンソーシアムが土台になるかは置いておいても、ぜひもっと出てきていただければと思います。

○山本委員：まさにそのとおりで、次、多分、VCとか新しくファンドをつくらうとした時にも、中に女性がいなかったら出さないとかっていうのってかなり普通にあると思います。

○中村部長：ありがとうございます。女性の起業家が確かに本当に、われわれもピッチ登壇とかご案内差し上げてはなかなか少なく、徐々に少しずつ増えてきているのかなっていう印象、関西全体を見た時にはなるかなというふうにも感じてはいます。最近であれば、われわれのほうでもちょっと行ってる、若手の学生さんとかを対象にしたアントレプレナーシップのプログラムとかに対しては、少し女性の学生さんも入られているなという印象もあるので、そういった方々が本当にスタートアップとして成長されていかれたらいい時は、一生懸命一緒になって伴走支援していきたいなとは思っているところです。

先ほどフォーリー委員からもコメントがありました、勉強会のところです。確かにコンソーシアムに入られている経済団体さんのほうでも、皆さん勉強会もされていますし、また、金融機関さまでも取り組まれていると思います。せっかくなので、やはりここに関しましてはできるだけ連携するなり、それぞれのカラーも見せつつ取り組めればなというふうに考えています。ばらばらでやるんじゃないものかなと思っておりますので、できるだけ一体的に連携した取り組みを見せていければなというふうに考えております。

ありがとうございます。

○北岡委員長：今おっしゃられた支援っていう話は、ここに産業局の方もおられるんかもしれないですけど、もともと中小企業っていうか、ラーメン屋の創業支援っていうところから、何となく大阪の創業支援っていうのは始まっているのかなっていうのは感じるんですけど、そういう支援も大切なんですけど、いわゆるスタートアップの支援っていうのはちょっと違

う次元なのかなっていうふうに思っています。

その中でやっぱり、先ほどゾンビ企業っていうお話も出しましたが、そのこのピボットのさせ方っていうのは、岡委員はかなりいろいろやられていると思うんですけど、その時に一番最初に出た、大学をどう利用するかっていうところとか、今回の KSAC、いわゆる JST の事業っていうのを多分、皆さんはこれ、勝手に大学がやる事業なんだというふうに思われていると思うんですけど、実はわれわれ大学側からすると、これは地域の活性化のためにどうするかって視点をすごく思っているんですけど、あんまりそのへんを自治体の方々は意識されていないと。本当であれば、そういう企業さんが大学のシーズの一部を例えば使うことによって、新たな事業展開を考えるとかいうことであつたりとか、大学から研究者なりを雇用して、新たな視点で、例えば AI の導入を進めるとか、いろんな視点って実はあるはずなんですけど、それが関東ではかなり動いているような気がしますけど、関西では二層分離しているのかなってというのが私も感じているので、やはり、ちょっと支援の対象であつたり、先ほど言ったグローバルっていうことでも、どういうために何を支援するのかっていう再定義をしていかないと、頑張って支援はしているんだけどなかなか成長しないなっていう繰り返しが起こるのかなという気はします。

もう一つやっぱり、女性っていう枠は、われわれプロジェクトを国ともやっていると、ほぼ今、それはかなり言われていて、確かに私も、春に UC バークレーの SkyDeck 行った時に、われわれ男子 5 人で行ったら、向こう女子、社長、部長、課長全部が女性で、ありや、まずいなと思ったら、1 人だけうちに、現地の人が女性にいて何とか助かったっていう事例で、今、急ピッチで、やっぱりキャピタリストであつたり起業家っていうのを育成してなきゃいけないなというふうに考えた時に、やっぱりもう少し長期的な目線で、学生なり企業に入りたての女子の方々をもっと関西で盛り上げていくような仕組みっていうのは、本来この大阪府市がやっていってもらいたいところでもあるのかなと。そうすると、関西である程度、やっぱり東京よりも住みやすくて、町で女性が、ここで起業していこうというふうになっていくと、今、VC もフェムテック系の枠っていうのを持っておられますし、そういう意味で関西圏の再生というのもあるのかなというふうに考えると、フォーリー委員が言われたり山本委員の言われている視点っていうのは、もう少し根本的に長期的目線で進めていくような議題なのかなというふうに、私自身感じました。

岡委員、お願いします。

○岡委員：二つ、女性については僕自身が、大阪がやられている LED 関西ってあるんです

けども、ここのピッチを拝見して、この業界、スタートアップ支援に入ったというのもあるんで、僕自身は、業界でも女性のスタートアップの比率がすごく高くて、ファンドで言えば、一般的に日本のファンドの場合、女性起業家への投資する数に対しての率が大体 5%と言われてるんです。われわれのファンドが、日本のファンドが 25%が女性ですんで、非常に女性に力入っていたり、イベントでも女性の経営者のセッションを一緒にさせてもらったり、特に、フォーリーさんにもよく相談してるんですけど、割と女性がそういうふうに登壇したり、また、スタートアップをするとすると、それが一つのロールモデルになって、より多くの若い女性起業家の方がスタートアップにチャレンジするという流れが今、できつつあると思うんで、今後ともそういったことは積極的にしていきたいなとは考えてます。

もう一つ、スタートアップとスモールビジネス、ベンチャーとの違いってということで、北岡先生がさっきちらっとピボットの話されましたけども、例えば、今日のこの注目のスタートアップっていう中で、大阪ヒートクールっていう会社があるんですが、ここは僕自身がピボットを提案して、それを受け入れたスタートアップなんですけど、もともとデバイスを全然違うジャンルで使いたいっていうことでピッチをしてもらったんですけど、どう見てもそれではなかなか社会実装もできへんし、世界を、日本をより良くするような、そういったものにはならないなっていうことで、かなりの時間をかけて、同じデバイスを使った別のもの、最終的にはアトピーの患者さんの痒みをなくすっていうのにたどり着きましてね。

これやったらいけるぞということで商品化を、プロダクト作ったというのがあるんですけども、まさにこういったピボットってのは、すごくいいピボットだったんじゃないかなと。手前みそになりますけども、ここが自身のミッションかなとは思ってまして、今後もそういったピボットのほうはどんどんしてもらって、より資金調達がしやすくて、世の中を変えるような、そういったスタートアップになってもらい、最終的にはグローバルでつながれるような、そういった形に支援はしていきたいなと感じてます。

以上です。

○北岡委員長：はい。ありがとうございます。全体通じて、何かコメントを最後、一言ずつもらえればなと思うんですけど。岡さん、今しゃべりましたので、では、フォーリー委員から何か最後、ご助言頂ければと思いますけど、いかがでしょうか。

○フォーリー委員：はい。もう言ってしまったことの重複になるかもしれないんですけど、今年に関しての報告については、非常に成果が出ているのではないかなというふうに思っておりますし、われわれのほうコメントさせていただいたことについても取り組んでいただ

いたということが如実に見えており、非常に素晴らしいと思っております。

ただ、ここまでスタートアップのエコシステムということで構築をして、やはり唯一ひとつ目標として実現が全くゼロである、ユニコーンの創出というところを本当にどうするのか。恐らく、そのユニコーンの創出っていうのは複数の要素が絡まっていて、単なる支援だとか、資金支援はもちろん必要なんですけど、そこだけではないと思うんです。恐らく、コンソーシアムとしてできることとできないことあると思うんですが、一つスタディというか、自分たちの振り返りとしても、一体どういうことが、海外のユニコーンの要素分析のようなことがあったとしたら、どういうふうなことが、その中でここはコンソーシアムとしてできることではないかというようなことを、それを考えて、もう一度ベースに戻って考えてみるというところは、もしかしたら役に立つのかもしれないなというふうに思います。

あとは、さっき申し上げたとおりのことなんですけど、**2025年**、やっぱり万博来るんですね。私も委員として、いろいろな報道があって心を痛めているところはあるんですけど、これは関西の重要なイベントということだけでなく、国家イベントなんです。やっぱりここに対して、海外に向かって発信をするというものすごいチャンスで、ここでスタートアップを発信するのではなくて、スタートアップのやっている、取り組んでいる新しい、未来社会のデザインなので、新しい次の世代、次の社会をつくっていくのにコンテンツをどうやって出していくかっていう視点というのは、非常に重要な視点だと思っているので、ぜひ大阪市さんとコンソーシアムのほうでご協力していただければと思います。

以上です。

○北岡委員長：山本委員、お願いします。

○山本委員：ありがとうございます。いろいろと既に申し上げたことも多いんですけど、より良い取り組みが増えてきていて成果が出ているというのは素晴らしいなと思っています。フォーリーさんがおっしゃったように、ユニコーンに対しての考え方というか、どうやってつくっていくかっていうところの戦略みたいなのを考えるところが、ここに多分、今言われているスタートアップ・エコシステムをどうするかというだけではなく、ほんとに経済的に大きくなる飛躍の秘訣が隠れているんじゃないかなというふうに思っております。それを、先ほどのような勉強会を通じていくと、さらにいろんな方と、やり方であったり考え方をシェアしてコンセンサスも取っていけるので、ぜひ有力な方を巻き込みつつ、勉強会をしながらユニコーンをうまくつくっていただければなというふうに思いますし、そういったエネルギー系のところで起きるのであれば、そういったところにさらにフォーカスして発信

していくことが、海外からの注目を集めるようになるのではないかなと思います。

先ほどフォーリーさんがおっしゃった万博も、世界からは、じゃあどんな万博になるのかってというのは必ず見られるので、私も今、また聞きしたことってどうなるのかなというふうには思っていますけれども、ほんとに未来が見えるコンテンツとして、いろんなスタートアップと企業と自治体の方とか皆さんがうまくつくっていているというような素敵なコンテンツが見られたら、日本に来れば、大阪に来ればこういうことができるんだなというふうに、向こうからのロールモデル的なものも描けると思うので、ぜひ頑張ってくださいと思います。できることがあったら何かお手伝いできればと思うので、おっしゃってください。

○北岡委員長：岡さん、お願いします。

○岡委員：ほんとに、今日も非常にいろいろな話聞かせてもらいまして、ありがとうございます。前回にも増していろんな成果が実際感じますし、いろいろな意見もすごくありますんで、僕も非常に勉強にもなりました。また次回も、こういったいろいろな試み、別の成果、また、改善点。特に改善点のくだりで、今日も北岡先生の鋭い指摘も結構ありましたんで、そういったものをどんどん反映させてもらって、よりいい形での評議会になっていけばなと思いました。

ありがとうございました。

○北岡委員長：ありがとうございます。私からは 1 点、こういう活動が今、進んでる中で、今ちょうどいい見直し時期でもあり、万博というところが世界への発信の時期だというふうに考えた時に、私自身、もう少し OIH の体制を見える化したほうがいいんじゃないかなと思っていて、さっき言ったように、誰が何をしているかっていうのが、われわれ大学から見てもなかなか見えないところがあって、グローバル担当が誰なのかとか、ユニコーン担当が誰なのかとか、ほんとにちょっと困った時に相談するのは誰に頼めばいいのかとか、そういう組織体系っていうのが普通はあると思うんです。大学でも当然よく言われるのは、大学ってどこに行ったら誰に相談できるんですかってよく言われて、それを今、われわれ各大学は、ワンストップ窓口はここですよとか、特許に関する相談はここです、共同研究はここです、スタートアップに関してはここですっていうのを見える化し、そこにある意味キーマンというものを置いていくっていうのを、各大学進めているわけです。そう考えた時にやはり、大阪府市っていうのは、京都、神戸、奈良、いろいろありますけど、言っても関西のど真ん中、中心であることは間違いのないわけであって、そこで OIH の組織の見える化っていうのは、ものすごく関西にとって重要だと思うんです。

その上で、先ほどご定義いただいたように、ユニコーンへの戦略をどうつくっていくのかとか、グローバル企業をつくるのにどうしていけばいいのかっていうのが、各自責任を持って体制を構築できるんじゃないかなっていう、そういう時期にきているのではないかなというふうに思いますので、そのへんぜひ、R6年度以降の活動に反映いただけると、大学とか各VCさんや、フォーリーさんや海外からの応援団、山本さんも、こういうところ、誰々さんにこうやってアイデアを言ってあげるよっていうのが言いやすい、窓口が分かりやすくなると思うんです。ぜひ、そのへんのことを検討いただければなということで、私の言葉で締めたいと思います。

本日は、いろいろ各委員からご意見ありがとうございました。反映できるものにつきましては即時、厳しいものについては長期的な目線で反映いただけるものだとわれわれ期待しておりますので、それでは、本日の評議会のほうはこれで終了したいと思います。

連絡事項などあると思いますので、事務局のほうにマイクのほうを返したいと思います。よろしくお願いします。

○大阪市経済戦略局（馬越課長）：はい。委員の皆さま方、長時間にわたってご議論いただきまして、誠にありがとうございました。ユニコーンをつくるための戦略というようなご意見も頂きましたけれども、われわれも OIH の活動、結構長い間やっておりまして、やっぱりユニコーンをつくるというのは、今までと同じことやっていたら、ちょっとなかなか難しいなというのは実感しているところでございます。引き続きいろいろ検討したり研究したりして進めてまいりたいと思っておりますので、またご意見など頂ければというふうに考えております。どうぞよろしくお願いいたします。本日頂きましたご意見踏まえまして、今度の施策に生かしてまいりたいと思いますので、どうぞ引き続きよろしくお願いいたします。

次回の評議会の開催につきましては、また事務局から日程調整のご連絡させていただきますので、次年度になると思いますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

以上で本日の評議会、終了させていただきます。どうもありがとうございました。